

彫刻ワーキング部会の検討状況

令和 5 年 3 月

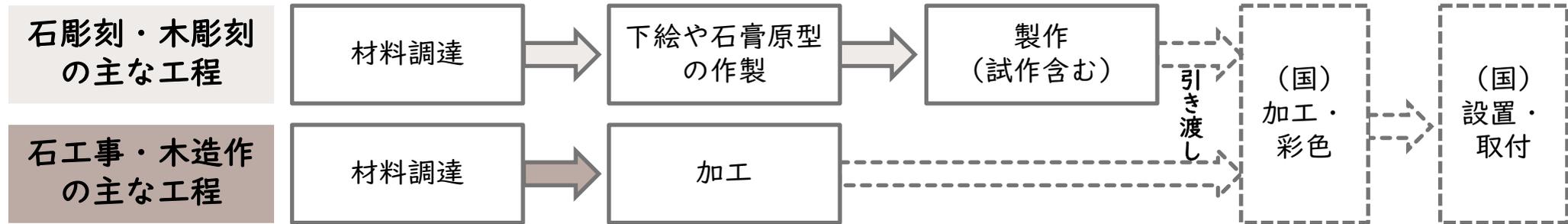


1. 彫刻WG部会での検討事項

■分野別の課題の整理（彫刻）

（1）彫刻WG部会の対象物と主な製作工程

- 彫刻WG部会では主に、石彫刻、石工事、木彫刻、木造作の4つを対象とする。



（2）彫刻分野の課題及びWGでの主な検討事項

- 彫刻WG部会では、次のような課題を踏まえて、製作物ごとに製作方針の決定や製作にかかる監修を行うものとする。

①正殿復元工事に合わせた製作スケジュール

- 礎盤、礎石、地覆石、天井額木は、建方開始に間に合わせるため、先行して製作する必要がある。

②下絵・石膏原型の利用可否の確認・新規作成等の対応

- 彫刻WGで扱う製作物のなかには、前回復元後に得られた新たな知見を踏まえて製作方針を検討するものがある。これらは、WG等での議論に基づいて新たに下絵や石膏原型を作製する必要がある。
- 前回復元時の下絵・石膏原型の利用可否、（利用できない場合）再製作の方針などについて、確認・検討を行う。

③製作体制及び環境の確保

- 調達した材料の保管場所や、石膏原型等作製を含めた製作場所等の確保が必要である。
- 県内技術者育成を視野に入れた、製作体制の早急な確保が必要である。

2. 対象製作物及び製作工期について

製作工期（国への譲渡期限）が早い順に対象製作物を整理すると次のとおりである。※必ずしも製作の作業順番には直結しない。

	国への譲渡期限(案)	番号	製作物名称	数量
A 急ぎの製作物	令和5年4月30日	2	礎石（外周柱用/内側柱用/束柱用）	105個
	令和5年4月30日	9	地覆石	53.2m
	令和5年7月31日	1	礎盤（向拝の柱の礎盤、礎石含む）	3段×4箇所
	令和5年7月31日	27	2階 天井額木	一式
B 令和5年度中に 譲渡	令和6年1月31日	24	2階 御差床 須弥壇（高欄含む）	一式
	令和6年1月31日	25	2階 御差床 龍柱	計2体
	令和6年1月31日	26	2階 御差床 羽目板	一式
	令和6年1月31日	29	1階、2階 台御差床	計2台
	令和6年2月29日	30	国王専用階段（おちよくい）内部手摺	両側
	令和6年2月29日	31	2階 外部窓手摺	3箇所
	令和6年3月31日	28	2階 内法額木	一式
C 令和6年度中に 譲渡	令和6年5月31日	11	唐破風 妻飾（火焰宝珠、蟬股、金龍、瑞雲）	一式
	令和6年5月31日	12	唐破風 懸魚	5箇所
	令和6年5月31日	13	入母屋破風 懸魚	左右 計2箇所
	令和6年8月31日	14	向拝 透欄間（牡丹唐草、獅子）	5箇所
	令和6年9月30日	5	小龍柱	一對（阿吽）計2体
	令和6年9月30日	6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	左右6対 計12体
	令和6年9月30日	7	石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）	約37m
	令和6年9月30日	8	持送石	34個
	令和6年9月30日	10	石階段（正面階段1、石階段2,3,5,6,7,8）	計10箇所
	令和6年11月30日	15	向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）	1箇所
	令和6年11月30日	16	向拝奥の彫刻物（金龍）	一對（阿吽）計2体
令和6年11月30日	17	向拝奥の彫刻物（獅子）	一對（阿吽）計2箇所	
D 令和8年度譲渡	令和8年4月30日	3	大龍柱	一對（阿吽）計2体
	令和8年4月30日	4	大龍柱の台石	2個

3. 令和4年度の彫刻WG部会における検討内容①

- 令和4年度の彫刻WG部会における主な検討内容は下記のとおりである。

会議名	12月	1月	2月	3月	備考
監修会議	① 12/6			② 3/7	
彫刻WG部会	① 12/19	② 1/27	③ 2/28		3回
彫刻WG部会に係る 調査・監修等		遺物調査 1/25	玉陵調査 2/14	監修：石材確認 3/6	

開催日	会議名等	主な検討内容
2022. 12/19	第1回彫刻WG部会	<ul style="list-style-type: none"> ワーキング部会の進め方の確認 ワーキングの対象となる製作物の確認 下絵・石膏原型等の調査報告 製作体制について
2023. 1/27	第2回彫刻WG部会	<ul style="list-style-type: none"> 製作体制について 今回製作における下絵・石膏原型の対応について 新たな知見の検討
2023. 2/28	第3回彫刻WG部会	<ul style="list-style-type: none"> 製作体制について 製作物ごとの監修及び記録撮影タイミングについて 新たな知見の検討

3. 令和4年度の彫刻WG部会における検討内容②

- 彫刻WG部会に係る調査等は次のとおりである。

遺物（親柱・石獅子等）調査

日時：2023年1月25日（水）9:00～13:00

出席者：西村委員、安里委員、田名委員、砂川教授

概要：製作物「No.6：石高欄及び登高欄 親柱上の獅子」や「No.3：大龍柱」の形態検討の参考とするため、埋蔵文化財センター及び県立博物館・美術館所蔵の遺物の形態を確認した。



玉陵（石獅子）調査

日時：2023年2月14日（火）10:00～11:20

出席者：西村委員、安里委員、波多野委員、砂川教授

概要：製作物「No.6：石高欄及び登高欄 親柱上の獅子」の形態検討の参考とするため、玉陵の高欄親柱石獅子の形態を確認した。



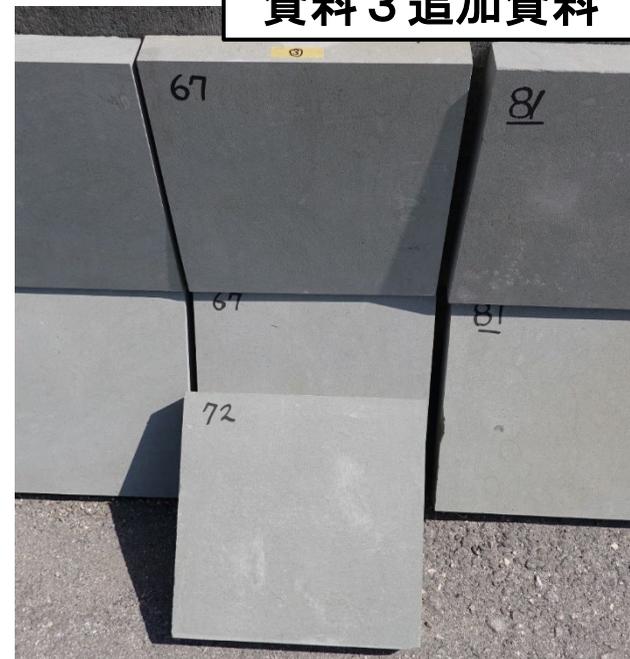
3. 令和4年度の彫刻WG部会における検討内容③【石材確認】

日時：2023年3月6日（月）10:00～12:15

出席者：西村委員、安里委員、波多野委員、砂川教授

概要：製作物「No.1：礎盤」「No.2：礎石」「No.9：地覆石」などに使用予定の調達済み石材の状況や、それらの作業場を確認した。

資料3 追加資料



細粒砂岩の確認状況（原石・版状態）



琉球石灰岩の確認状況

作業場の確認状況

4. 下絵・石膏原型・火害製作物の調査

- 今回製作の工程等の検討材料とするため、平成復元製作時の下絵・石膏原型・火害製作物の所有状況や状態について調査を実施した。

下絵

- 前回製作者により保管されていたものが多く、今回製作においても活用可能。
- ただし、新たな知見等により、新規作成が必要なものもある。



石膏原型・型

- 前回製作者や複数の施設にて保管されていたものがあり、今回製作においても活用可能。
- 一部、補修や修正が必要なもの、阿吽の片方が残存せず新規作成が必要なものもある。



火害製作物

- 首里城火災により被害を受けた平成復元製作物のうち、今回製作において、形や色味を参考にできるものがある。



下絵・石膏原型・火害製作物確認(2023/1/25時点)

※1…県芸：沖縄県立芸術大学／海文：国営沖縄記念公園海洋文化館／県：沖縄県／製作：前回製作者
 ／県博：沖縄県立博物館・美術館
 ※2…顔が向いている方を正面とした場合

番号	枝番	製作物名称	部位	原型/下絵/型	所蔵※1	写真	利用可否	外形寸法※2 (W幅×D奥行×H高さ) 備考
1	1	礎盤(向拝の柱の礎盤、礎石含む)	最下段(礎石)	なし				
1	2	礎盤(向拝の柱の礎盤、礎石含む)	礎盤の下段	石膏原型	県芸		○	※芸大では「向拝柱礎盤蓮弁文様」で登録 φ470×H170
1	3	礎盤(向拝の柱の礎盤、礎石含む)	礎盤の上段	石膏原型	県芸		○	※芸大では「向拝柱礎盤」で登録 φ420×H230
2		礎石(外周柱用/内側柱用/束柱用)		なし				
3	1	大龍柱	阿形/頭部	石膏原型	県芸		○	
3	2	大龍柱	阿形/体部	石膏原型	県芸		○	
3	3	大龍柱	吽形	石膏原型	県芸		○	
4		大龍柱の台石		なし				

5. 急ぎの製作物及び新たな知見等の検討

- 彫刻WG部会の対象製作物における急ぎの製作物や新たな知見の検討状況は下記のとおりである。

No.	製作物	新たな知見の概要	検討状況
1	礎盤（向拝の柱の礎盤、礎石含む）	—	【第1回WG部会】前回踏襲を確認。
2	礎石（外周柱用/内側柱用/束柱用）	—	【第1回WG部会】前回踏襲を確認。見え隠れ部の石材について代替材を検討。
9	地覆石	—	【第1回WG部会】前回踏襲を確認。
27	2階 天井額木	—	【第3回WG部会等】基本は前回踏襲とするが、下絵に若干の修正が必要なることを確認。
24	2階 御差床 須弥壇（高欄含む）	<ul style="list-style-type: none"> 前回製作後に発見された古写真から、須弥壇の柱の形状について前回復元時から修正が必要であることが提示された。 	【第2回WG部会】古写真及び国の委員会から提示された図面通り修正する。
17	向拝奥の彫刻物（獅子）	<ul style="list-style-type: none"> 前回製作後に発見された古写真から、獅子の大きさや向きについて、前回復元時から修正が必要であることが提示された。 	【第2回WG部会】資料等をもとに、彫刻WG部会で検討を進めていくことを確認。
15	向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）	<ul style="list-style-type: none"> 前回製作後に発見された古写真から、レリーフの図柄の種類や数について、前回復元時から修正が必要であることが提示された。 	【第2回WG部会】資料等をもとに、彫刻WG部会で検討を進めていくことを確認。
6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	<ul style="list-style-type: none"> 古写真や遺物等の分析により、獅子の体及び顔の向きや形態について、前回復元時から修正が必要であることが提示された。 	【第3回WG部会】顔や体の向き等については新たな知見通り修正することを確認。表情等については引き続き検討。
5	小龍柱	<ul style="list-style-type: none"> 古写真や遺物等の分析により、小龍柱の形態について、前回復元時から修正が必要である可能性が提示された。 	【第3回WG部会】古写真等の分析により引き続き検討。
3	大龍柱	<ul style="list-style-type: none"> 古写真や遺物等の分析により、大龍柱の形態について、前回復元時から修正が必要である可能性が提示された。 	【第2回WG部会】古写真等の分析により引き続き検討。

6. 彫刻WG部会の検討内容及び次年度に向けた課題

- 今年度の彫刻WG（計3回）で検討した内容及び次年度に向けた課題は下記の通りである。

		検討内容	令和5年度の課題
検討項目	製作体制及び製作環境の検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 下絵・石膏原型等の製作体制は調整済み。 ● 木彫刻は県立芸大関係者、石彫刻は平成復元従事の製作関係者、建築的な木構造物(懸魚など)は平成復元従事の製作関係者を当初の体制として進めることを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 製作体制については、引き続き調整を行っていくが、<u>首里城正殿の復元スケジュールに遅滞の無いよう、早々の体制構築が求められる。</u> ● 木彫刻は県立芸大所属の技術者が多いことから、技術者同士の情報交換や学生等への作業公開も行いやすいという点で、<u>県立芸大及び周辺での共同作業場整備を検討する。</u>
	急ぎの製作物について	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな知見がないものは、概ね前回踏襲で製作を進めることを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな知見があるものは、製作スケジュールも考慮しながら、積み残し事項を引き続き検討する。
	監修方針	<ul style="list-style-type: none"> ● ①材料の品質、②下絵・石膏原型等製作、③彫刻（試し彫り・本製作）の各段階で監修することを確認。 <p>※監修が必要な製作工程や頻度は製作物によって異なる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記の通り、確実に監修を行う。 ● <u>製作スケジュールを円滑に進めるために、各作業場で実物確認しての監修も行う。</u>
	製作記録	<ul style="list-style-type: none"> ● 製作技術者と連携のもと、工程ごとに丁寧な記録撮影（静止画・動画）を行うことを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記の通り、製作スケジュールに影響がないよう製作技術者と連携のもと、記録撮影を行う。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和4年度では造形の結論や方向性が決定していない製作物がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県立芸大等が進める鎌倉芳太郎写真のデジタル高精細化事業、埋蔵文化財センターや県立博物館・美術館といった専門機関等と連携をとりながら、引き続き検討を進める。